

報告 4 資料

日本 NPO 学会第 10 期理事会・大会運営委員会の事業報告

20200228 田中敬文

以下の通り、事業報告させていただきます。

I 第 22 回大会(駒沢大学)について、開催に向けて大会実行委員会を組織し、鋭意準備中である。

第 22 回大会(駒沢大学)について

開催日時: 2020 年 6 月 6 日(土)・7 日(日)

開催場所: 駒澤大学 3 号館

- ・これまで実行委員会を 3 回開催した。

第 1 回: 2019 年 9 月 30 日 (月)

議題: メンバーの自己紹介、大会運営・会場、タイムテーブル案、報告募集の日程検討等

第 2 回: 2019 年 12 月 20 日 (金)

議題: 報告応募の採否決定、学会企画・実行委員会パネルの検討、大会公開シンポジウム、実行委員会イベントの検討、大会プログラムとタイムテーブル案の検討、参加費の設定等

第 3 回: 2020 年 2 月 12 日(水)

議題: 修正依頼した報告応募の採否決定、学会企画・実行委員会パネルの検討、大会公開シンポジウム、実行委員会イベントの検討、大会プログラムとタイムテーブル案の検討、参加費の設定等

- ・大会プログラムとタイムテーブル案(別紙)

- ・公開シンポジウム(別紙 資料 1)

- ・これまでの実行委員会で決まった主なもの

・一般報告 26、学生報告 6、一般公募パネル 6 について、一部修正依頼があるが、すべて採用とした。

・一般報告を 9 つの部会に分け、モデレーターと討論者を決定し、学会事務局より依頼した。理事には積極的に依頼した。

・学会企画パネル 5 (うち学術委員会 1、災害対応委員会 1)のうち、災害対応委員会パネル G4「大規模災害時における日本 NPO 学会の役割」の登壇者等詳細が未定である。

・実行委員会パネル 5 について、内容・登壇者等の詳細を詰めた。

・実行委員会イベント(座禅体験等)は今後詳細を詰める。

・1 セッションを 100 分とする。

・書籍販売を行う。

・ポスターセッションについて、内容・会員への告知等に努めたが、応募がゼロのため、実施しないこととした。

・大会公開シンポジウムについて、テーマを「こんな時代だからこそ改めて NPO！-連帯の進化に向かって」(仮)として、内容・登壇者等の詳細を詰めた。モデレーターは李先生。

・総会は 1 日目のランチタイム (13 時～14 時 30 分) の前半に 45 分間 (13 時～13 時 45 分) で開催する。

・1 日目・2 日目の振り返りには、各報告のモデレーターかコメンテーターが登壇し、まとめ報告をする。

残された課題

- ・公開シンポジウムへの一般参加者の参加費は無料であるが、配布資料代を徴収するかどうか。
- ・大会参加費は第3回実行委員会では確定しなかったため、継続審議とする。
- ・3月はじめにプログラムを公開して、参加者募集を開始したい。

II 大会運営規定案について

・組織運営委員会が作成した案に対して、特に、大会実行委員会委員長を開催校代表者とすること等、大会運営委員各々が意見を述べた。

III 第22回大会(駒澤大学)以降の大会開催について

- ・大会開催を10大学に依頼したが、諸般の理由から開催が困難であると断られた。
- ・第24回大会以降の開催校についていまだ打診はしていない。少なくとも、東京・関東地区について開催校を見つけるのは容易ではない。
- ・今後、新たな開催校の開拓、現理事への自大学での開催依頼、自大学で開催できる理事の選定、2回目の開催等、考慮する必要があるのではないかな？
- ・東日本大震災10周年にあたる第23回大会は、西出・岡田・石田会員のご尽力により東北大学で開催できる予定である。

開催希望日程：

- ・2021年6月19日(土)20日(日)、6月5日(土)6日(日)、6月12日(土)13日(日)
(1月末現在、上記日程はいずれも予約可能。)

ご参考：他学会との重複可能性

- ・6月5日(土)6日(日) (公共政策学会、組織学会との重複。2019年の場合)

開催場所： 東北大学(川内キャンパス・文科系総合講義棟)

(宮城県仙台市青葉区川内27-1)

大会実行委員長候補：西出優子(東北大学大学院経済学研究科教授)

石田会員・岡田理事と3名で会場下見済み。

日本NPO学会第10期理事会・大会運営委員会の次年度事業計画

I 第22回大会(駒沢大学)について、成功させる。

II 第23回大会(東北大学)について、開催時期を確定し、大会実行委員会を組織する。

III 第24回大会以降の開催校について打診し、決定する。

IV 大会運営規定案について、組織運営委員会等と協議し、作成する。

第 22 回 NPO 学会大会 公開シンポジウム

理論と実践の対話 連帯の進化—NPO の新地平へ

趣旨：

このシンポジウムの発案は、助成財団で働く方のこんな疑問からであった。

NPO が一部のいわゆる「意識高い系」の閉じた世界になっているのではないか。NPO が活発な社会が、すなわち幸福な人が多く、不幸な人が少ない社会なのだろうか。そもそも NPO はこれから必要なのか。

「NPO の役割が見えなくなっている」という危機感は、NPO セクターに関心と期待を寄せていた多くの人の間で広まっている。長く市民の実践に携わってきた方が、次のように述べている。

本当は、今、市民社会、NPO だからこそすべきことは、たくさんある。

- ・ パリ協定、SDGs のグローバルな社会運動の連帯
- ・ 農作物、海洋資源の保全などサステナビリティの流通の革新
- ・ ESG 投資で提示される環境・人権・公平な情報アクセスに対する企業へのプレッシャー
- ・ 困難な人の立場を守るアドボカシー
- ・ あまりにひどい政府・霞が関に対する情報公開クリアランス
- ・ 国連から指摘されるメディアの政府従属に対する独立メディアの構築
- ・ IT やエネルギーを力としての中央集権から分散型社会への構造変革
- ・ 市民をエンパワーするテクノロジーの取込み

ただ、これらのテーマに対して、日本の NPO は消極的に感じてしまう。

今の時代だからこそ、NPO ならではの役割が必要とされている。しかし、NPO の役割が見えなくなってしまうている。20 年前に NPO に大きな期待を寄せていた多くの人々が自信を失いかけている。一体何が起きているのだろうか。NPO が自らの役割を見出し果たせるようになる突破口はどこにあるのだろうか。

このシンポジウムは、理論的研究に長ける研究者と、実践経験豊かな実践者との対話という形式を取り、NPO の新地平へと向かうためのヒントと手がかりを見出すことを目的とする。研究的側面からは、いまなぜ、社会における NPO の役割が見えにくくなってしまったのか、その背後にある時代背景や構造的な問題について、また、市民社会セクターの再編に向けて、それぞれの研究成果を語っていただきたい。実践的側面からは、NPO の組織形態やコンセプトに囚われることなく、活動や運動の広がり和社会的な効果を達成している新たな市民的な繋がり方、連帯の技法の進化について語っていただきたい。両者の対話と議論を通して、市民や住民の主体性を「実質化」できるような、新たな連帯の技法を提示し、こんな時代だからこそ NPO が果たすべき（果たせる）役割の新地平を切り拓いていきたい。

登壇者：

①仁平典宏先生（東京大学大学院教育学研究科比較教育社会学講座 准教授）

研究テーマは市民社会と福祉国家に関する社会学的研究。現在実施中の研究プロジェクトは「日本の市民セクターにおけるビジネスライク化の実態とメカニズムに関する研究（2017－2022）」。

主著『「ボランティア」の誕生と終焉 ―〈贈与のパラドックス〉の知識社会学―』名古屋大学出版会 2011 年。

②津富宏先生（静岡県立大学国際関係学部国際関係学科 教授）

テーマは犯罪学、刑事政策、評価研究、青少年支援、社会参加。研究者でありながらも実践家として青少年就労支援ネットワーク静岡で、コミュニティ・オーガナイズを展開され、そこで見られる「静岡方式」はまさに連帯の技法。主著津富宏+NPO 法人青少年就労支援ネットワーク静岡『若者就労支援「静岡方式」で行こう!!』クリエイツかもがわ（2011 年）

③ちやぶ台返し女子アクション中村果南子（大学生オーガナイズ担当）。

女性をはじめとするあらゆる性の人々が自分を肯定できる社会に向けて、性的同意を広め、性暴力をなくす活動や性別役割分業を考え直す活動など、当事者同士がつながり共に声をあげることで社会的・政策的変化を起こす草の根運動を展開。下記は推薦者の言葉。

- ・ 実際に若い中心に被害にあっている人が多い喫緊の課題（性暴力）を真正面から取り上げ、個々の被害をなくすことと、制度や社会的規範の変換を目指していること
- ・ 旧来の（一部の）フェミニズムを、おもに海外からの目線を取り入れることによって、より普遍性のあるもの（すべての人が生きやすくなる世の中を目指す）に昇華させようとしていること。
- ・ 旧来の NPO のあり方論を突き抜けて？（「踏襲して」でも「無視して」でもなく）、自分たちの主張の仕方と連帯の作り方を模索し、それを形にしていること。
- ・ アートを通したコミュニケーション、政策変更を目指すロビー活動等、目的に応じた活動やキャンペーンを自分たちの信念の発露として軽やかにこなしていること（「NPO は事業とアドボカシーが両輪だから」といった旧来の枠から考えるのではなく）。
というようなものに映っている。

④市川文子さん（Re:public 共同代表）

広島県出身。慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科修了（ヒューマン・コンピューター・インタラクション専攻）。その後フィンランドの通信メーカー、ノキア社に入社、約 10 年に渡りインサイト&イノベーション・チームのユーザーエクスペリエンス・エキスパートとして世界 80 カ国における生活者の実態調査の設計とディレクション、端末づくりを手がける。退社後、株式会社博報堂イノベーション・ラボを経て現職。

豊富なリサーチの経験を元にイノベーションの生態系について研究と実践を手がける。金融危機以後の市民主導の再生を描いた「明るい未来の作り方」（ダイヤモンド・オンライン）、監訳に「シリアル・イノベーター」など。

Re:public は、広島や佐賀、熊本といった地方自治体と仕事をしており、HUB Tokyo と

資料 1

違って物理的な拠点を自分たちで持つという方法ではなく、新しいチャレンジができるように地域の基盤を作ることを目指し、「新しいチャレンジをしながら食べていけるようにする」ことにこだわり、「伴走する」スタイルで仕事をしている。広島でのプログラムについて <http://innovators100.org/top> を参照。

モデレーター

李

タイムテーブルと流れ案（14：30－17：00）：

- 14：30－14：35 シンポジウムの趣旨
- 14：35－15：15 NPO の新地平に向けた分析と提言（約 20 分×2 名）
- 15：20－16：05 私たちが目指すつながり方、その哲学と実践の技法（約 20 分×2 名）
- 16：05－16：15 休憩
- 16：15－16：45 研究者と実践者の間で質疑応答する、モデレーターが交通整理する。
- 16：45－17：00 会場からの質疑応答

資料3	大会タイムテーブル						
	日時	セッション1	セッション2	セッション3	セッション4	セッション5	実行委員会イベント
6月6日	9:30-11:10 A	学会企画パネル： NPOセクターにとつての宗教・宗教団体の意義：「鬼門」封じの試み 岡本仁宏／稲葉圭信／白波瀬達也	実行委員会パネル： 非営利セクター内協働の現状と課題 柏木宏／後房雄／日詰一幸／井上団	一般報告： 経営とガバナンス 大庭竜太／大川新人／石田祐彦 モデレーター：吉田忠彦 コメンテーター：太田達男	実行委員会パネル： NPOセクターとデータ－利活用の前に議論すべき、収集と蓄積の課題 粉川一郎／庄司昌彦／原潔／自治体職員（未定）	一般公募パネル： 地域企業への兼業・副業とその仕組みについて考える -NPO法人G-netふるさと兼業の事例より- 今永典秀／掛川遙香／大谷真奈美／川合俊也／塚本恭之	展示 販売（見本市含む） 落書きボード
	11:10-11:20	休憩＆交流タイム					
	11:20-13:00 B	一般報告： 社会的機能と宗教 小田切康彦／仁平典宏／浅井伸行 モデレーター：岡本仁宏（承諾済み） コメンテーター：坂本治也（承諾済み）	一般報告： NPOと教育 西出優子／田辺大／佐野淳也 モデレーター：田中敬文 コメンテーター：藤井敦史	一般公募パネル： NPOコンサルティングの生成と展開 秋葉武／田口由紀絵／笠原孝弘	一般報告： 若者 新宅圭峰／粉川一郎／栗原俊輔 モデレーター：桜井政成 コメンテーター：岡村こず恵	一般報告： 地域活性化 世古一穂／中嶋貴子／加藤知愛 モデレーター：水谷衣里 コメンテーター：松本典子	
	13:00-13:45	総会（ランチ持参可）					
	13:45-14:30 ランチセッション C			学生セッション：社会起業家とNPOの役割 藤本直樹（桜井政成）／楊雨双（坂本治也） コメンテーター：今永典秀（承諾済み）	学生セッション：地域振興 鳥本真生（今永典秀）／杉本 亮（桜井政成） コメンテーター：三浦一浩	食に関するワークショップ 世古一穂	
	14:30-17:00	公開シンポジウム：理論と実践の対話 連帯の進化－NPOの新地平へ 仁平典宏／津富宏／中村果南子／市川文子／李					
	17:00-17:15	休憩＆交流タイム					
	17:15-18:00	大会1日目の振り返り（ファシリテーター：広石拓司）					
	18:00-20:00	学会賞＆交流会					
6月7日	8:20-9:20	朝の坐禅					
	9:20-9:30	移動					
	9:30-11:10 D	学会企画パネル： SI学会共同セッション ソーシャル・イノベーションとNPO 佐野淳也／岡本仁宏／新川達郎／服部篤子	一般報告： 市民参加と社会運動 寺下和宏／桜井政成／富永京子 モデレーター：坂本治也（承諾済み） コメンテーター：山岡義典	一般報告： 就労とNPO・WISE 内田香奈／菰田レイ也／佐藤勝典 モデレーター：藤井敦史 コメンテーター：八木橋慶一（承諾済み）	一般公募パネル： 東日本大震災から10年を迎える2021年3月に向けて 菊池遼／菅野拓／中尾公一	一般報告： 寄付とファンディング 瀬上倫弘／石田祐／瓜生原 菓子 モデレーター：柏永 佳南 コメンテーター：今田克司	展示 販売（見本市含む） 落書きボード
	11:10-11:20	休憩＆交流タイム					
	11:20-13:00 E	学会企画パネル： 東アジアにおける社会的経済と社会的企業 桜井政成／岩満賢次／Lim Sang／Ying-Hao Huang	一般公募パネル： NPOの政治参加は如何に展開して行くべきか－次世代アクティビストと考える 稲田千紘／鬼沢秀昌／木村聡	一般公募パネル： 低所得のシングルマザーと若者のファイナンシャル・ヘルスを考える 椎野修平／小関隆志／赤石千衣子／新宅圭峰／今田克司／土屋一步	一般報告： 災害と復興 菅野拓／石田祐／中川政治 モデレーター：大久保朝江 コメンテーター：早瀬昇（承諾済み）	実行委員会パネル： 市民と投資家、企業の協同の可能性と課題－CRFのESGエンゲージメント・プロジェクト 黒田かをり／水口剛／飯沼佐代子／桑平武志	
	13:00-14:30 ランチセッション （理事会） F	対話：東アジア地球市民村×東アジア市民社会フォーラム（企画） 李／朱恵文／村上徹也／楠田健太	映像＋トーク：幸せの経済フォーラム(返信なし)	対話：助成プログラムの開発と改訂プロセスの共有 利根英夫／今野真理子／田口由紀絵／武藤良太	映像＋トーク：トラジションジャパン（梶間陽一）	ファンディング協会ワークショップ 大石俊輔	
	14:30-16:10 G	学会企画パネル：協同組合学会共同セッション－市民が自由につくれる協同組合を構想する 青竹豊／相良孝雄／栗本昭／関英昭	実行委員会パネル： 2010年代日本の市民社会の地勢図－社会運動の視点から 小杉亮子／辰巳智行／菰田レイ也／中根多恵	一般公募パネル： 改めて、市民社会創造を青臭く語る 椎野修平／山岡義典／松原明／中島智人	学会企画パネル： 大規模災害時における日本 NPO 学会の役割 （登壇者未定）	実行委員会パネル： インパクト投資の潮流とその拡大に向けた展望 水谷衣里／黄春梅／菅野文美／山中礼二	
	16:10-16:25	休憩＆交流タイム					
	16:25-17:10	大会2日目の振り返り(広石拓司)					
	17:10～	各種委員会					

※一般報告部会のモデレーター・コメンテーターは、黒字は確定、青字は返信待ち。